

令和3年度事業報告(令和4年3月31日現在)

拠点区分	サービス区分	番号	事業名	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和3年度具体的事業実施内容	令和3年度実績	令和2年度実績
社会福祉事業拠点								
	企画広報事業	1	社協だより発行業務	基本目標3 地域から信頼される社協づくり「まち」	4. 7. 10. 1月 年4回発行 発行部数86,000部×4回 全戸配布 ※10月より世帯増により300部増	本会の地域福祉活動等の情報発信の手段として、全戸配布にて市民周知を図った。10月より世帯数増のため300部増刷した。	181～184号発行 計 344,600部	177号～179号発行 計 258,000部
	地域福祉推進事業	1	生活支援コーディネーター受託事業	基本目標2 笑顔あふれる 地域づくり「ちいき」	(1)生活支援・介護予防サービスのコーディネート ①地域の高齢者支援ニーズ及び地域資源の把握、問題提起 ②資源開発 ③担い手養成・意識醸成 ④個別支援 ⑤関係者との協議 (2)多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進に関すること。 ①犬・猫一時預かり事業 (3)コミュニティーソーシャルワーカーと兼務し、地域支援を行う。 ①担い手活動支援(だけボラ)事業 (新規) ②勇払移送支援事業 (新規) (4)町内会、自治会において「声かけ・見守り活動」の支援対象者を拡大し、社会的孤立を防止し地域の悩みや不安を解消支え合いの環境づくりを推進(あんしん生活サポート事業を継承)	令和2年度と同様にコロナウイルスの影響により地域活動は停滞していたため、今年度においてもアンケート調査を実施。 東日本大震災から10年が経過し、日本全国で災害が頻発していることから、苫小牧市内における災害時の見守りについても検討する必要があるというアンケート結果がでた。そのため、昨年度作成した見守りガイドブックの第2弾として防災編の作成を市危機管理室、町内会連合会と共同で作成し、市内町内会等に配布した。 「だけボラ」事業を新規事業とし、地域におけるちょっとした困りごとに対応できる地域の担い手の育成に着手した。また、コロナウイルスの影響で室内での交流が難しいと判断し、だけボラ農園を開設し、新しいカタチの地域交流の場として展開している。農園で収穫した作物は、子ども食堂などに寄贈し活用していただいている。 新規事業高齢者支援として「シニア向けスマートフォン活用講座」を開催した。参加者を少数に限定し、全4回の講座を行った。希望者多く、キャンセル待ちの方が多数いたため、それらの方を対象に改めて講座を開催した。	(1)① 184件 ② 126件 ③ 149件 ④ 43件 ⑤ 115件 (2) 20件 ①ボラ35名、犬4頭、猫63匹 (3)①活動日数 104日 登録人数 73名 ②活動日数 133日 延べ利用人数 179名 (4)個別ケア会議 21 回 圏域会議 4 回	(1)① 261件 ② 145件 ③ 25件 ④ 100件 ⑤ 145件 (2) 1件 ①ボラ30名犬1頭、猫11匹 (3) ① —— ②ボラ4名、利用者5名 (4)個別ケア会議 44回 圏域会議 6回
		2	CSW事業	基本目標1 安心して暮らせる 支援体制づくり「ひと」	高齢者や障がい者等に限らず、地域の課題について把握し、その課題解決のための地域資源づくり等について地域の方々と対策を検討 市内7包括圏域に各1名を段階的に配置する。	相談件数は増加しているが、SCと協働のもと、犬・猫一時預かり事業や移送サービス事業、だけボラなど、いわゆる「制度の狭間で困っている方」の繋げ先となる制度を本会で創出、実施することで、課題解決や個々の活躍の場を展開できた。また、福祉課題の芽を早期発見できるタイミングともなった。 ※支援件数:今年度新たに支援の対象となった件数 ※継続支援数:3月31日時点において継続して支援を必要とする件数	相談 83件 (うち来所相談 11件) 支援 20件 継続支援 19件 支援終了 31件	相談 54件(来所10件) 支援 31件 継続支援 27件 支援終了 21件
		3	かぎ預かり事業	基本目標1	社協へ申込→依頼者近郊の協力施設でカギ保管(24時間対応)→事業協力員が安否確認を行う。	協力施設の拡大及びかぎ預かり事業への理解・周知を目的にポスター・パンフレットの作成・説明会の開催等に努めた。	預かり 27件 協力施設 13件	預かり 20件 協力施設 12件
		4	ふれあいサロン事業	基本目標2	地域が運営するサロン開設をサポートし、地域住民の社会参加・見守り・安否確認・情報共有の推進を図る。	「サロン通信」を発行し、コロナ過でも活動出来るサロン運営について情報を継続的に発信した。また、屋外での交流事業にも着手し、ふれあいサロン事業推進を行った。	登録数 70ヶ所	登録数 68ヶ所
		5	介護支援いきいきポイント事業	基本目標2	65歳以上の市民を対象に登録研修会を開催し、登録者本人の介護予防と要介護・要支援状態の地域の支え合い活動の推進を図る。	登録者の研修交流会(カフェ)での情報交換や、「いきPカフェ通信」による登録者の活動意欲の維持等を図った。また、在宅高齢者の支援活動を行った。	登録数 371名(5名増 35名減)	登録数 401名
		6	無縁仏供養法要事業	基本目標1	市内で身元が判明しないままお亡くなりになられた方、社会の移り変わりによって、縁者を失ってしまった方々のお盆供養として毎年8月に、仏教会、立正佼成会の協力により開催	昨年度に引き続き、コロナウイルス感染拡大予防のため、規模を縮小して開催した。	8/19関係者のみで開催	8/20関係者のみの開催 (来賓6名)
		7	とまこまいコロナワクチンキャンセル待ちバンク事業	基本目標1	市内での新型コロナワクチンの接種において、医療機関からワクチンの余剰が出た時、予約システムにおけるキャンセル待ち登録者リストをもとに、キャンセル待ち対象者とのマッチングを行う。	苫小牧市より、6月から2月までの期間で事業を受託した。コロナワクチンの余剰分を効率よく接種してもらうため、ワクチン接種希望者と医療機関とのマッチング行い、効率的な接種を進めた。	依頼 874件 マッチング 778件	
	高齢者福祉推進事業	1	愛の一声運動	基本目標1	市内に居住する65歳以上のひとり暮らし及び高齢世帯で安否確認が必要と認められる方からの申請を受け、ヤクルトの配布を行い安否確認を実施する。	長期間休止していた登録世帯の状況を再確認することで、現状の利用者の把握に努めた。昨年に引き続き、コロナウイルスの影響により研修会は中止とした。	登録世帯278世帯 配付利用者実績3,121件	登録世帯 311件 配付実績2,936件
		2	給食サービス事業	基本目標1	市内に居住する65歳以上の高齢や障がい等で調理や買い物等が困難な方へ配食し、栄養面の安定を図る。 (利用料1食400円を利用者が負担)	長期間休止していた登録者の状況を再確認し、モニタリング作業を含めて現状の把握に努めた。事業を運営する中で身寄りのない利用者への対応に課題が見られ、配食施設・業者、または関係機関と安否確認時等の連携のあり方を共有した。	登録者330件 配付利用者実績3,856件	登録者数 401件 配食実績3,973件
		3	在宅介護リフレッシュ事業	基本目標1	在宅介護者の心身のリフレッシュと介護者同士のつながりをつくることを目的として、研修や体験活動と1泊の温泉宿泊・日帰り旅行を各1回開催	昨年度に続き、コロナ禍により事業は中止としたが、過去参加者を対象に介護の現状を確認するためのアンケートを実施し、更には慰労品を贈呈した。	第1回 中止 過去参加者(41名)へ慰労品贈呈	第1回中止 第2回中止
	ボランティアセンター事業	1	ボランティア体験プログラム事業	基本目標2	①51メニュー(内20メニューが休止)の体験ボランティアを通じて活動の理解を深め登録ボランティアの拡大を	既存の登録ボランティアを活用した体験紹介へ繋げた。	①参加者 7名	参加者 6名
		2	傾聴ボランティア等養成事業	〃	②「傾聴・点訳・朗読・ボランティア養成講座」を開催し登録ボランティアの拡大を図る。(各講座年1回)	各種養成講座に参加し、様々なボランティアに関心をもってもらい、ボランティア活動団体に繋げた。	②参加者 11名	参加者39名
		3	防災ボランティア研修会	〃	③「防災ボランティア登録研修交流会」を開催し防災ボランティアのスキルの向上と登録拡大を図る。	未登録者対象の防災講座を開催することで登録者増を図り、被災時の共助体制を構築した。	③参加者44名	参加者36名
		4	ボランティアスクール事業	〃	④小学生・中学生・高校生を対象としたボランティアスクールを実施し、若年層のボランティア育成を図る。(年1回)	新型コロナウイルスによる体験先の受け入れが難しい状況から、今回はオンラインによる交流を実施した。	④12月27日・1月12日開催 参加者 7名	中止
	5	雪かきボランティア事業	基本目標1	⑤高齢・障がいにより自力での除雪が困難な世帯に対し除雪支援を行う。	企業や学校、個人のボランティアの協力のもと12月～3月までの期間にて実施した。昨年と比較して降雪が多く、活動件数が大幅に増加した。	⑤1,609件	466件(延べ)	
	6	市民ボランティア講座開催	基本目標2	⑥市民に広くボランティアに関する理解を深めて貰うための活動として実施(年1回)	ボランティアと地域住民の活動を調和させ活動の継続を図った。	⑥10月20日開催 16名	参加者20名	
	7	ボラセンフェスティバル開催	〃	⑦市民活動センター指定管理者自主事業としてボランティアセンター事業と活動センターのPRを目的として開催	コロナウイルス感染拡大防止策を講じ、規模を縮小して実施した。	⑦10月16日開催 443名	中止	
	8	福祉学習推進事業	〃	⑧市内の小中学校を対象に介護の体験・疑似体験・当事者講話などを通して他者を理解する等の授業を実施	コロナウイルスの影響により、当初予定していた当事者の講話を中止せざるを得ない状況のもと内容を変更しながら実施した。	⑧13校 101学級(延べ)	13校 119学級(延べ)	

令和3年度事業報告(令和4年3月31日現在)

拠点区分		番号	事業名	地域福祉実践計画 体系	具体的な実施事項	令和3年度具体的事業実施内容	令和3年度実績	令和2年度実績
サービス区分								
社会福祉事業拠点								
	福祉人材バンク事業	1	福祉人材バンク委託事業	基本目標2	胆振・日高管内を担当エリアとし、福祉職への就職を希望する求職者と福祉職を求める施設・事業者とのマッチングを目的とし、合同面接会(年2回予定)やマンパワー活用研修を企画実施する。また、ハローワークでの出張相談(室蘭・伊達・静内・浦河 月1回)を継続実施。	コロナウイルスの影響はありながらも、感染対策を行いながら運営し、求人数、求職者数ともに昨年度より増となった。福祉職場説明会は新たに室蘭市においても開催し、事業の周知・拡大を行った。マンパワー講習会も日程変更をしながら実施した。	求職者 161名 求人 381件 マッチング成功 17件/19件	求職者 106名 求人 304件 マッチング成功 18件
	法人運営事業	1	理事会・評議員会	基本目標3	理事会及び定時評議員会・臨時評議員会・役員研修会を開催	コロナウイルスの影響により、理事会、評議員会は書面開催が多くなったが、役員によるガバナンスのもと適正な法人運営を行った。	理事会:第1～3回、5回書面開催 第4回 12/14対面開催 評議員会:第1～2回、4回書面開催 第3回12/24	理事会5回 研修会1回 評議員会3回
		2	監事監査	〃	四半期及び決算時に職務執行状況及び財務監査を実施し理事会・評議員会へ報告	定款に基づき、財務状況等定期的な報告に努めた。	第1四半期8/25 第2四半期11/11 第3四半期2/17 (年度監査5/12)	第1四半期8/26 第2四半期11/12 第3四半期2/16 (年度監査5/12)
		3	社協会費募集	〃	事業者及び個人会員より社協運営費財源確保のため会費を募る。	これまでの社協だより及びホームページによる周知・PRだけではなく、新たに会員募集のためのチラシを作成し、社協内で連携して、積極的に会員依頼の働きかけを行うことにより、これまで以上に会員の拡大を進めることが出来た。	納入額 6,160,200円 1号 349件、2号 199件 普通 82件 合計630件	納入額 5,769,800円 1号 193件、2号 164件 普通 81件 合計 438件
		4	社協リーフレットの作成	〃	社協リーフレットを作成	地域における社協の役割を広く周知することで地域住民に社協を身近に感じてもらうために、また、社協会員への案内をする際のツールとして新たに作成した。	1,000部作成	
		5	労務・財務管理	〃	職員の労務管理及び会計基準に基づく財務管理と関係機関への各種届出・申請・登記	関係機関への法令に基づく届け出等については適切かつ確実に行った。	登記届出 6月25日	登記届出 6月25日
		6	福祉車両・車いすの貸出	基本目標1	車いすが必要な方の社会参加の支援として福祉車両及び車いす貸出を行う。	貸出事業を引続き継続し、利用者のより良い生活の保持に努めた。また、関係企業の協力により、車椅子のメンテナンスを行った。	車いす 259台 福祉車両 44件	車いす 229台 福祉車両 30件
市民相談事業拠点								
	市民相談及び貸付事業	1	生活福祉資金・生活応急資金等貸付事業	基本目標1	借入れの背景にある生活課題を把握し、その解決に向け関係機関と連携し資金貸付と相談を一体的に行う。	世帯の経済的自立と安定した生活に向けた相談対応を目的に支援を行うとともに必要に応じた支援を構築する為、行政関係課やその他関係機関と連携を図った。	相談 2,559件 貸付 840件 応急資金貸付 203件	相談4,224件 貸付1,368件 応急資金貸付 187件
		2	市民相談事業	〃	専任相談員による各種相談支援、及び弁護士(3名)による無料法律相談(月1回)	多様化する相談内容に対して柔軟に対応した。また、相談内容により、弁護士及び他職種へ繋げる支援を実施した。	市民相談 619件 法律相談 18件	市民相談 599件 法律相談 12件
	日常生活自立支援事業	1	日常生活自立支援事業	基本目標3	高齢・障がいにより日常生活の判断に不安があり生活支援員の支援を希望される方に生活支援計画書を作成して、サービスの契約や日常生活上の金銭管理の支援を行う。	専門員、支援員の交流とスキルアップを図る交流研修会を実施するとともに、支援員確保の為の養成研修会実施した。また、利用者の認知機能低下等による成年後見制度への移行対応進めた。その他、コロナウイルスの影響により、社協内各課支援チームとの連携、事例検討は実施しなかった。	委託分 29件 独自分 2 件 支援員登録 47名	委託分 32件 独自分 2件 支援員登録 49名
	成年後見支援センター事業	1	法人後見事業	基本目標1	判断能力が低下した方の権利と財産を守るため、家庭裁判所の審判に基づき、本会が後見人を受任し、養成した後見支援員により支援を行う。	成年後見支援センターの中核機関化に向けて、法人後見業務と一体的な運営を体制を整えてきた。また、受任要請に応じていく為の体制整備としてセンターの職員配置構成について内部検討を重ねた。	受任 77件 監督 12件	受任 58件 監督 14件
		2	成年後見支援センター事業	〃	成年後見に関する相談支援の他、申立て支援、市民後見人の養成研修(年1回)を行い、法人後見と運動しながらリレー方式で市民後見人を養成する。	個人受任を目指す市民後見人の養成を行うと共に、中核機関を想定して市内関係機関との地域連携、専門職、親族、市民後見人のバックアップを行ってきた。また、広く権利擁護支援を行うために地域ケア会議、カンファレンス等に積極的に参加をしてきた。来年度よりスタートする東胆振三町との広域業務体制の準備に着手した。	市民後見人 35名 後見支援員登録 25名	市民後見人 36名 後見支援員登録 38名
介護保険事業拠点								
	居宅介護支援事業	1	居宅介護支援事業	基本目標1	要介護認定を受け、介護保険サービスの利用を希望する方に対し、ニーズの把握やケアプランの作成を行い、在宅生活を支援する。また要支援認定者に対しても各包括からの受託でケアプラン作成等を行う。	自主研修への取組みや外部研修に参加し、介護支援専門員スキルの向上に努め、利用者のニーズに応えてきた。	介護 1,786件 予防 130件	介護 2,150件 予防 226件
	認定調査事業	1	介護認定訪問調査事業	基本目標1	苫小牧市以外の市町村より依頼された認定調査を実施	他市町村の認定調査依頼に対して全て対応してきた。	他市町村 156件	他市町村 92件
	訪問介護事業	1	訪問介護事業	基本目標1	ホームヘルパーを利用者宅へ派遣し、掃除・洗濯、買い物などの家事や、入浴などの身体介護を提供する。	多様な利用者ニーズに応えていくため、自主研修を継続し、サービス提供責任者のスキル向上とヘルパーのスキル向上に努めてきた。	派遣回数 6,170回 (訪介 4,834、総合 1,336)	派遣回数 7,396回 (訪介5,871件、総合1,529件)
	障がい事業	1	居宅介護事業	基本目標1	障がい者を対象とし、自立した暮らしを支えるためにホームヘルパーを派遣し、掃除・洗濯、買物等の家事、入浴などの身体介護や、視力に障がいがある方への同行支援を提供する。	障がい者への対応方法等について理解を図り、必要な支援の提供に努めた。	①居宅 2,187回 同行 392回	①居宅 2,868回 同行 456回
2		移動支援事業	〃	障がいにより、屋外等での移動に著しい制限がある方への外出支援を行う。	②派遣 72回		②派遣 157回	
指定管理事業拠点								
	男女平等参画推進センター事業	1	男女平等参画推進センター事業	基本目標3	サークルの登録・育成・指導及びサークル協議会運営,相談事業実施,託児事業実施,自主事業実施 男女平等参画に関する研修・講習等の実施,男女平等参画に関する相談事業の実施及び情報収集と提供	男女平等参画に関する相談事業・女性活躍促進事業・自主事業の充実を図った。また、各部屋の美化に努め、修繕や備品整備を行い、利用しやすい環境作りを図るとともにSNS等を積極的に活用してセンターのPR活動を行い、新規利用者の開拓を図った。(主に若年層～働き世代)。	利用件数 3,307件 利用料収入 1,808,350円 参加料収入 637,254円	利用件数 3,302件 利用料収入 2,727,960円 参加料収入 465,103円
	市民活動センター管理運営事業	2	市民活動センター管理運営事業	基本目標3	市民活動センター管理全般 新型コロナウイルス感染拡大防止緊急事態宣言による 休館:5/17～6/20 8/28～9/30	誰もが安心して利用しやすい施設を目指し、WiFi利用環境の拡大を行った。また、自主事業として、色とりどりの傘でホワイエを飾る「アンブレラスカイ」を男女平等参画推進センターと合同で実施し、さらに施設内で老朽化している椅子、テーブルの入れ替えを行い、利便性の向上を行った。	利用件数 3,313件 利用料収入 1,547,950円	利用件数 3,711件 利用料収入 1,813,248円